会員の皆様へ：年会費納入の情報：.郵便封筒の宛名下の数字参照。2023 は 2023 年度分まで納入済

しのばず自然観察会より 2023-09 2023.09.01

2023 年９月の活動　不忍池 定点観察　９月１０日（日）

集合：午前１０時　不忍池　蓮池南西端緑の小旗あり（野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り）
今回は雨天中止
持物：筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具、マスク　（敷物、昼食、日傘、団扇）
解散は午後１時頃ボート池畔または藤棚
参加費不要　非会員の参加も歓迎

６月１２日前後に不忍池のハスが咲き始めましたが、猛暑の割にはその後の開花がゆっくりという具合で、季節が読めない今季です。夏の名残りと秋のはしりが見つかるかも知れません。

2023 年　８月１３日の不忍池観察記録

８月の定例観察会は１３日（日）、朝４時頃に強い雨が来ましたが、その後雨も上がり、８名の参加者がありました。ところが集合して歩き出して５分後くらいにザーッと雨に見舞われ、立木の下に逃げ込んでしのぎました。降り始めは立木の樹冠が雨を遮断してくれたのですが、その後は徐々に雨水が木の下に落ちてきました。小降りになって歩き始めると、ハスの葉の中心部に雨水が溜っていました。溜った雨水が増えると重心が移動し、ハスの葉の外側のひだ状になった凹部分から水がザーッと池の水面に落ちます。ちょうど、庭園に設置される「ししおどし」のようです。

曇り時々雨の天気予報に加え明け方と１０時過ぎの雨のためか、不忍池の園路の人出は日曜日にしてはまばら、外国人のカップルやグループが目立ちました。１１時過ぎにまたパラパラと小雨が降り出し、ボート乗り場のひさしの下に逃げ込みました。この時、ボート場は降雨のため営業休止中でした。雨はすぐやみ、後の解散・帰宅後の午後４時ころに強い雨が再来しました。

ハスの花は７月９日の観察会のときと同じくらいの数に感じましたが、咲き終わりや実になって「はちす」状になったものがたくさん見られました。桃色の花がほとんどでしたが白っぽい花も見られ、双眼鏡で見ると、花びらはごく薄い桃色で、やや薄

い桃色の縁取りがありました。６年前に見た厚みがある白花で桃色の縁取りがあるハスとは別のようです。

雨上がりの蓮池浮き橋路上で、濡れた地面（プラスチック？木？）に尾を打ち付けて産卵行動をするウスバキトンボがいました。何十年か前の秋の雨上がりであれば、アキアカネの群飛が見られたのに、と、ふと思いました。

この日は動物園池のカワウがとても静かで、コロニーにいる個体も数羽しか目につきませんでした。

ウチワヤンマ

ごく薄い桃色のハス花

生き物リスト（集合前、解散後の確認も含む）

鳥：カルガモ、カワウ、コサギ、カイツブリ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、スズメ、ドバト

昆虫：ウチワヤンマ、ギンヤンマ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、チョウトンボ、コフキトンボ、青くないイトトンボの仲間、アゲハ、ヤマトシジミ（蝶）、セスジスズメ（幼虫）、アブラゼミ、ミンミンゼミ、クマゼミ、アシナガバチの仲間

爬虫類ほか：クサガメ、（アカミミガメは確認できず）　コイ

植物（草本・低木　ほとんどが外来種・導入種）：ワルナスビ、ハス、ミソハギ、コガマ、ジュズダマ、ススキ、、ヘビイチゴ、カタバミ、ホワイトクローバー、園芸種では、アベリア、タチアオイ、桃色花と紅花のキョウチクトウ、シマサルスベリ、

2023年　１０月の不忍池定点観察会は１５日（日）の予定です

しのばず自然観察会　事務局　〒110-0001 台東区谷中３－１－９ 小川潔 方
１９７５年創立 電話 03－3828－8775　URL : http://sinobazu.extrem.ne.jp
郵便振替 00100－8－84609 しのばず自然観察会　年会費 2,000 円

＊＊2022 年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ＊＊

2023年８月１３日の活動　　小川千恵子

集合前

9:23。ボート池に近づくと、大きいコシアキトンボが２匹池の上を飛ぶのが目に入る。赤い大きなコイがジャンプ。ひっくり返したボートの上にカルガモ４羽。手前の植え込み筏の横に１羽が泳ぐ。

アキニレ下。池縁の陽当たりの良いところには15～20㎝の細長い葉が広がる。（ヘラオオバコ？）葉先はカットされている。背低く切られたのが伸びて来たのだと思う。

木陰はドクダミやヘビイチゴの１㎝未満の葉が広がる。白い3～4㎝の球根らしいのが15個位、地表に顔を出している。何かな？無事に芽が出てきてほしい。

灰色や茶色の鳩の中に白い羽の鳩が２羽。１羽は眼の周りに濃い灰色の斑点、尾先は黒く、尾のつけ根から5㎝上まで濃い灰色。もう１羽は白と黒のブチの鳩。昨年12月に確認した尾の真中一部が黒かった鳩はずっと見ていない。

池寄りのところは葉先がカットされた細長い葉が風に揺れる。手すり寄りはもう少し短めの細長い葉が丸まった形で葉先が下を向いている。もっと手前は園芸用の濃い緑の７～8㎝のとんがった葉の一群。共に何？

ガンジン像北のアキニレの下は草が少ないまま。桜カンザン２本の下も草はないまま。南端の陽が当たるところにクローバーの花がまだ残って咲いている。西側不忍通り沿いの木立からミンミンゼミの大合唱。

ゆっくり歩く後姿の女性。そっと近づいて顔をのぞきこむと、Ｓさん！少し話していると私の首筋が変。アシナガバチがまつわりついていた！足元に小さなカタバミの黄色い花一輪。

池中の鉢のガマの穂が先月より長くなっている。ウチワヤンマ、シオカラトンボが飛ぶ。ヤブガラシの葉が所々にいくつも。丸い葉のチドメグサの一群。一番目の2m超えのタチアオイは花が所々に少し、枝は多数の丸い実がつく。２番目以降のタチアオイは20㎝位の高さで全部刈られてしまった。ヤマトシジミ（蝶）らしいのが足元の葉にとまる。

ボート池と蓮池の分かれ道に大きな幼虫らしきものが横たわる。Ｓさんが「技？」、ボールペン先でさわってみるとふにゃという触感。メモ紙の上にのせて見ると「お尻の方にピンと突起が立つのでスズメガの幼虫。何かは？」とＳさん。集合地に運ぶ。

あとで潔が調べる。「セスジスズメ」の幼虫だった。写真の幼虫は折れ曲がった体をしているが、突起の右側は踏みつぶされたのか、内臓が出ている。

集合地から

スノーフレイクのあった所の背の高い黄色いカンナは花が終わり、菊の葉はそのま

ま。

音楽堂横のキョウチクトウはきれいに咲いている。と、突然スコール様の強い雨が降り出し、周囲が白く霞む。シマサルスベリ辺で木陰に入ってしばらく雨宿り。シマサルスベリは枝先に白い粒々の花が咲き始めた。去年の実なのか、こげ茶色の実の房が下がる。シマサルスベリは全部で４本。落羽松は隣り合って２本。気根は確かめられず。

強い雨で、かしいだ蓮の葉の上を雨が滑り落ちる。ところどころにある上向きの葉は水が溜り、風か水の重さかで急にかしぎ、葉の水がザーッと一挙に流れ落ちて、葉はまた上を向く。初めて見た！

左：セスジスズメの幼虫　左上が頭　　右：蓮の葉に溜った雨水の水玉

蓮は池の南側から見ると葉丈が水面から 2m以上になっていて、近くの花は見えるが池の真中や北側を見渡すことはできない。下町風俗資料館前の少し低くなっているテラスの入り口の植え込みの縁が少し高くなっている。そこに上がると池の奥まで見えることを発見。絶景！

池の南側の葉丈は高いのに弁天堂入口に近くなると葉丈は低い。先月は入り口近くになると花が少なかった。これはどうして？と近くにいた方に聞いてみた。「陽当たり」「栄養」。蓮に詳しいＫＯさんに聞いてみた。蓮は泥の中の栄養で育つ。弁天堂入口近くには地下水が流入。水が流れると泥が少なくなる、と。流入しているのは栄養豊富な川ではなく、地下水なんだと改めて知る。

※（注）あとで潔に聞くと、弁天堂入口近くでは京成電鉄のトンネル由来の地下水のほか、上野のお山にある非常用貯水槽からの排水も流入している可能性がある。流入水による水流のせいで他所より水が深くなっていることの影響も考えられる。また、上野と周辺の浅い地下水からは池よりも高い濃度の硝酸体窒素が検出されている、と。

この地下水の流入しているところでチョウトンボ４匹。まるでそれを追い払うように飛ぶ大きなコシアキトンボ１匹。

大藤棚南のジュズダマは実がいっぱい。ハトムギ茶の原種だそう。ふと西側に目をやると白い花びらの蓮の蕾が目に入る。白？ここには白の蓮はないはず。周りの人も気づいて見入る。ＫＯさんがそっとさわると、白い花びら１枚と中に小さい花びら１枚。

残っているのは花托と雄しべ。なんのことはない。花びら２枚がまるで蕾のように立体的に見えただけ。周りにいた何人もの若い人達からオオーッと声があがり、みんな気になっていたんだ！不忍池の蓮は薄いピンクだが内側は白い。

弁天堂裏を西へ出たところで再び雨。ボート場入口のひさしの下で雨宿り。ボート場は閉まっている。ボート池と蓮池の間の道を南下。歩き始めると時の鐘が鳴り出す。続けて３個鳴った後、しばらく間があく。そのあと鳴り始めたようだが、ききとりにくい。

ボートが一艘もいないボート池ではカルガモが悠々と泳いでいる。

この道の南端の植え込みの縁に皆で腰かける。今日は二度も雨宿り、そしてその間はカリカリの太陽に照らされ、くたびれた。

解散後いつものテラスへ行き、ボート池を見ながら昼食。目の前のボート池にカルガモとカイツブリ。カイツブリは、いつもは潜っては出てをくり返すがこの日はずっと浮かんでいる。コサギが飛ぶ。ボートがないボート池を見るのも仲々良い

蓮の話

先月、花托にある「穴のように見える雌しべ」と書いたが、今日さわってみたら、穴ではなく出っぱりだった。ポコポコと出っぱっている。先月の観察会のあとからずっと気になっていた花托の雌しべひとつひとつに花粉がつく必要があるのか？花粉のつかないめしべはどうなるのか？花粉を媒介するハチはそんなに見かけないが、風でも運ばれるのか？をＫＯさんに尋ねた。

花粉は雌しべひとつひとつに着く必要がある。着かなかった雌しべは太って実になることはなく、しぼんでしまう。花托全部が熟して実が入っているとは限らない。ハチも媒介するが、花の写真を撮ると甲虫が写りこんでいることが多いから甲虫も媒介しているのだろう、と。

蓮の葉のまん中、裏に葉柄が付いているところは、白っぽい、そのまん中に１本盛り上がった線がある。この線は葉が泥の中から巻いて出てくる時の中央にあたる。この白っぽい、葉の真中とその近くの筋は空気の取り入れ口だそう。

その葉柄を折って切り口を見ると、いくつかの小部屋に分かれている。2 つに折った葉柄を左右に引っぱると糸が伸びる。「ぐうし（藕糸）」と言う。何の働きをしているのかは次回に質問予定。

蓮の花は一重、八重がある。一重は花びら 20 枚位で、花びらの形や大きさは皆同じ。不忍池の花は八重で 80 枚以上。外側の花びらは大きく、真中の花びらは小さい。

重台蓮という種類は花びらが 2000～3000。三頭蓮は花の中に３つの花があり（写真を見ると蓮の花の中にぼたんの丸い蕾が 3 つ入っているように見える)、3 つの花の中は小さい線様の花びらになり、ピンセットでつまんで数える。雄しべが花びらになっているのでタネ（実）ができない。地下茎でふえる。オニバスも同様で、もともと同じ個体から出発しているので、何かあると全部が滅ぶ可能性もある。